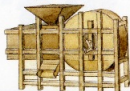




もみから、げん米を
とりだすために、もみがらを
むくための農具はどれ？



とうみ



もみすりうす



千歯こき



古くから絹(シルク)を
とるために飼われてきた
カイコが食べる葉っぱはどれ？



クワ



サクラ



クヌギ



2 もみすりうす



こたえ 11



もみすりうすは、もみからもみがらをむいてげん米^{げんまい}をとりだすための道具です。上からもみを入れてうすを回転させるともみがらがむけ、横のすきまからげん米^{げんまい}ともみがらが出てきます。



むかしの米のしゅうかく作業の流れ



稲かり

田んぼの稲をかりとり、
たばにして、天日干しをする。



脱穀

くし状の歯の部分にかわした簀の
たばを入れて手前に引いてもみを落とす



選別

ハンドルを回して風を送り、
わらくずなど、もみにまざった
ゴミを吹き飛ばして取りのぞく。



俵づめ

げん米は俵づめにして保存。
もみがらはたい肥や燃料として使う。



選別

ふたたびとうみを使って
もみがらとげん米とを分ける。



もみすり

もみをもみすりうすに入れ、
もみがらをむく。

3 クワ



こたえ 12



カイコはクワの葉っぱだけを食べて大きくなります。そのためカイコを飼う農家では、畑や家のまわりにたくさんのクワの木を植えていました。

カイコは、カイコガというガのなかまの幼虫です。卵からふ化したカイコは4回ほど脱皮をくりかえし、口から白い糸を出しながら、2~3日かけて3cmほどのだ円形のまゆをつくり、その中でさなぎになります。このときに出す糸の長さは1300m~1500mにもなり、この長い糸を利用して絹糸がつくれます。この糸で布をおり、1枚の着物をつくるには、2600個ものまゆが使われます。



① クワの葉を食べるカイコ。



② カイコ(幼虫)がさなぎになるときにつくるまゆ。このまゆから絹糸をとる。



③ まゆから作った絹糸